

# マダニ媒介 西日本で増



## ■細菌「日本紅斑熱リケッチア」を持つマダニにかまれることで感染

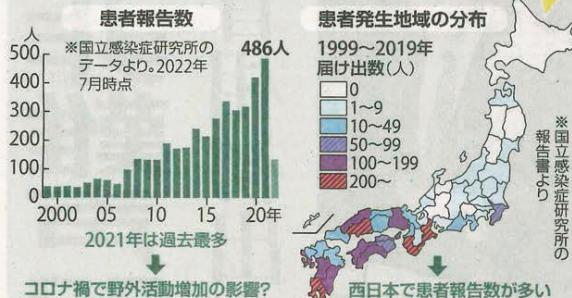
(写真はいずれも大阪健康安全基盤研究所提供)



- ・春から秋にかけて多い
- ・かまれても痛みやかゆみはなく気づきにくい
- ・発熱、発疹、頭痛、倦怠感、など多様な症状

早期に治療しなければ命に関わる恐れ

## ■患者数は増加傾向、発生地域も拡大



## ■身を守るには

- 野外で活動するとき**  
(ハイキング、農作業、草取りなど)
- ・肌の露出を避け、長袖長ズボンを着用する
  - ・滑りやすい素材、淡い色の服を着る
  - ・虫よけスプレー(ディートやイカリリンの入ったもの)を使う

- 帰宅後は**
- ・帰宅後すぐに入浴し、マダニが付いていないかチェックする
  - ・着ていた上着は家の中に持ち込まない
  - ・服に付いたマダニはガムテープで取り除き、すぐに洗濯する
  - ・マダニを殺すには乾燥機を使う

1週間くらいして高熱や発疹が出たら

ためらわずに早期受診する  
野外活動した、ダニ媒介感染症が心配ななどと医師に伝える

## ■体についたマダニは無理して取らない

- ・マダニの頭部を体内に残さない
- ・マダニ内の病原菌を体内にとりこまないよう、つぶさない
- ・専用のピンセットを使うか、医療機関で処置してもらう



つぶさない病原体が入る可能性あり

アザインシ単井微生物

## 早期の発見、治療が重要

マダニが媒介する感染症には、ツツガムシが媒介するツツガムシ病、マダニが媒介する日本紅斑熱、重症熱性血小



なぜ起きるの?

春から秋にかけて屋外での活動時には、マダニが媒介する感染症に注意が必要です。このうちマダニが媒介する「日本紅斑熱」は近年、西日本で患者が多く報告されています。治療が遅れると重症化して致死率が高まるため、発症後はすぐに医療機関を受診してください。(東礼奈)

## 日本紅斑熱

板減少症候群(SFTS)などがあります。日本紅斑熱は、「日本紅斑熱リケッチア」という細菌を持つキチマダニやフタトゲチマダニなどに噛まれることで、体内に細菌が入り感染します。

これらのマダニは野山や畑、家の裏庭などに生息し、シカやイノシシ、アライグマなどの野生動物に取り付いて吸血します。リケッチアを持つ野生動物から吸血したり親から受け継いだりしたマダニが草むらに潜み、通りかかった人へと病気を媒介します。

1984年に徳島県で初めて患者が報告され、近年増加傾向にあります。西日本の広島、三重、和歌山などで感染者が多いです。国立感染症研究所によると、2017年以降は年間報告数が300人を超え、昨年は最多の486人が報告されました。他の感染症が減少した新型コロナウイルスの流行下でも増加してい

ます。マダニにかまれても痛くもかゆくもなく、かまれたこと自体に気づかないケースが多いです。かまれてから発症までの潜伏期間は2~8日です。発熱やかゆみのない発疹、頭痛、倦怠感など様々な症状が出ます。発疹は発熱の2~3日後から全身に広がって四肢に目立つことが多いです。

過去の行動から感染が疑われる場合は、マダニの刺し口を探します。刺し口のかさぶたや血液を採取し、リケッチアの遺伝子検査や抗体検査をして診断します。

治療はテトラサイクリン系の抗菌薬を点滴などで1~2週間投与します。19年は届け出時点で13例の死亡が報告されており、治療が遅れて多臓

器不全をおこすと致死率は跳ね上がります。検査による確定診断前から早期に治療を始めることが何より重要です。

野山に行くときは肌が露出しないよう服装に気をつけ、有効成分のディートやイカリリンが入った虫よけスプレーを服の上からかけましょう。長時間活動する場合は数時間おきに塗り直してください。滑りやすい生地はマダニが付きにくく、淡い色の服はマダニの付着に気づきやすいです。

帰宅後は必ず入浴し、マダニが付いていないかを確かめます。マダニは体の軟らかい部分を探して歩き回ると言います。頭部やわき、足の付け根などよくまわ確認し

ます。体につ着した直後のマダニは払うと取れますが、しばらくするとセメント状の物質を出して口を固定し、1週間程度血を吸い続けて体を膨らませ、おなかがいっぱいになると離れます。無理に取ろうとすると、頭部を残してしまったり、マダニを潰して病原体を人の体内に入れてしまったりする恐れもあるため、医療機関で処置してもらってください。



関雅之 りんくう総合医療センター 総合内科・感染症内科副院長

刺し口が見つからなければ発疹が出る他の疾患との区別も難しく、治療開始が遅れば命に関わります。日本紅斑熱がコロナ疑いの中で見逃されることなどがなく、団地の裏の草むらなど身近な場所にもマダニは潜んでいると意識し、医師にしっかり伝えてください。

※「医なび」では、身近な病気の知識や治療の情報をお伝えます。科学医療部 ファクス06・6361・0521、Eメールoykagaku@yomiuri.com